

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能書写ひまわりホーム
所在地	(〒 671 - 2201 ) 姫路市書写 634-50		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

令和5年度は高いレベルでの職員間での結束とチームアプローチの実践を目標に掲げ取り組んでいます。より専門的知識を得て、看護と介護が協働で高め合いながらチーム一丸で取り組みます。在宅生活を支えるプロとして、その人に合った支え方を柔軟に考え、介護・医療を一体的に提供する事でより質の高いサービスで在宅生活を支え、地域に信頼される施設を目指します。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 3 月 3 日	従業者等自己評価 実施人数	( 13 ) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 3 月 13 日	出席人数 (合計)	( 6 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 〃 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 〃 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> その他 ( 〃 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	看護師を講師とした学びの時間を多く確保する。24時間のシフト制のため、全員参加は実現しにくい。会議時には毎回、研修を実施する。	月に1度の事業所の会議時には施設長にも出席していただき、職員(介護士・看護師)講師による研修を行い、スキルアップを目指した。	意識の高まりを実感するものの、実行力に欠ける感は否めない。特に医療面からのアプローチがまだ課題。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	体調の急変時の対応に問題がある場面があったと思われる。介護職員にとっては負担の大きな部分である。主だったケースについてマニュアルを作成し運用することが有効である。	介護と看護が協働で行うことで多角面からの支援に繋げるべく、どんな事例も振り返りを行い、自分ならどう対応するか根拠に基づき判断する機会を設けた。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	確実な連絡手段であるFAXを主たる連絡ツールとして使用する。送信が確実に実施出来ているかの確認までしっかりと行うことが求められる。	新たに委託する地域包括支援センターをはじめ、関係各所にはこちらから積極的に働きかけを行った。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	ウィズ・アフターコロナの時期を迎え、これまで不足していた対外的な取り組みに挑戦する。地域活動への参加を積極的に行う。	5類になったとはいえ、行事等への参加はまだコロナ前にまでに至っていない。感染対策を行い、オンライン等に頼らず工夫して行う必要がある。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	新たに受託する地域包括支援センターを有効に活用し、連携して看護小規模多機能の認知度を上げる。	利用者個々に応じたサービスの追求をチーム協働で行う。	「看護小規模多機能」と「小規模多機能」の違いに目を向け、看護に特化したサービスを提供できる施設作りを行う。地域に信頼される施設を目指す。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	医療関連の必要知識についてはまだまだ不十分である。介護と医療がしっかりと役割を果たし、事業所の特性をより発揮できるよう知識の習得と実行力を身につける。	これまでも取り組んでいる、職員主体の研修会を継続しつつ、外部研修にも積極的に参加し、スキルアップを目指す。事例検討を用いて、より具体的に考える機会を作り、実践力を高めたい。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者のアセスメントを自ら積極的に行うことが重要である。またそれが未熟である。利用者をより知る為のアプローチと介護と医療の情報を分析し、判断できる力を身につける。	アセスメントを高め、得た情報をサービス内容に反映できる体制を早期に作る。そのために、事例検討会を職員主体で行う場を作り、実行力を高める機会を提供する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	病院、主治医との連携については以前に比べてスピード感が増している。今後も確実な連絡体制を継続する。	日頃から病院、主治医等関係各所と当たり前に連絡できる関係作りに注力する。また職員による気付き力を高め、それを反映できる看護師との体制強化も行う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	医療ニーズの高い利用者様を積極的に受け入れることで、社会的な使命を果たす。	医療ニーズに応えるだけの知識の習得と、看護師主体による勉強家の機会を作り、全体的なスキルアップを図る。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	専門的知識を深め、互いに高められるチーム作りを行うため、再度自事業所、職員の行動全般に検証し改善する必要性が求められる。	個々のアセスメント力を高め、利用者を多角面から理解し、自分の言葉で情報を積極的に発信し、利用者に対するサービスの質を追求する。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価【適切な事業運営】</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			施設長の考え方、指導方針が明確でわかりやすい。その為、職員一人ひとりへの伝達がしっかりと行えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			医療と介護がしっかりと役割を果たし、看護小規模多機能事業所としての特性を發揮されることを望む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			継続することは勿論のこと、今後更に人材育成を行うか次のステップに働きかけてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 定例の会議において、各々の課題を明確化し、課題の講師を務めるよう意識を高めた。事前準備を行い知識量の向上に繋がった。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			「これでいい」と思うことなく、限りなく向上心を落ち続けて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 各種の委員会での研修会の実施をはじめ、研修内容は充実している。オンライン研修への参加も全体的に機会を増やしていく必要がある。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			勤務形態が複雑な中、どんな些細な情報も「聞いていない」と言わないようしっかりと伝達をしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 会議や朝礼、定時の申し送りでの情報の伝達を行っている。また、気付き等の発信の場としている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<p>せっかくの機会を頂いている。人生の先輩からの意見も反映して頂けると有難い。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議では助言を頂きながら、会議が進められている。色々な角度からの助言は前向きであり、職員へ伝えられている。</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			<p>異動は仕方ないにしても離職者が少ないことから、働きやすい職場作りに勤められていると思う。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員の悩みや不満等が早急に解決できるよう、話しをする機会を個別で作り、風通しの良い環境を目指している。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>情報管理は徹底して欲しい。外部に漏洩するニュースを聞く度に、個人情報の管理の大切さを感じる。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の変化については申し送りにて即座に対応している。モレがない様、申</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		し送りノートを活用し、確実に伝達できる体制としている。今後も継続する。					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			原因分析と対策は大切である。その都度きちんと振り返り、同じ事故を防止してもらいたい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			昨今の異常気象の様子を踏まえ、災害訓練には真摯に取り組んで欲しい。利用者の命を守る砦として期待している。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます。

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>Ⅱ サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<p>看護に手厚い事業所として周囲からの期待は大きい。夜間対応等、負担は多いが頑張っている。</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 家族への聞き取りを中心に対応しているだけでなく、日々の生活の関りの中で情報収集に敏感になっている。在宅生活を中心に据え、質の高い支援が提供できるよう、得た情報を分析し、実行していく必要がある。</p>	<p>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</p> <p>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります。</p>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<p>介護職、看護職双方が互いの業務内容を認知し、協働で行うことは難しいと思うが期待している。</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 両職種の垣根を取り払う努力と質の向上がこれからの課題であると感じている。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			<p>家族の困っていることを整理し、信頼関係を築くことは大変だと思うが、利用者だけでなく家族を支援し、安心感を持って利用することができる事業所を目指して欲しい。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている			○		<p>法人内で専門的な理学療法士が行き来し合える関係は素晴らしい。専門的知識を発揮し事業所の職員の知識アップに繋げてほしい。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<p>専門性の高い分野であり素人が理解しにくい場面が多く見られると想像できる。書面での説明が適切ではないか。</p>	<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			<p>ケアマネの能力向上に努め、効率の良い業務遂行力を身につけることが必要である。</p>	<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			<p>信頼関係を築けているなら安心である。様々な背景や課題があるだろうが、最善を尽くして欲しい。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
		を早期に得たい。					握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			利用者の変化に素早く気付き、適切に関係多職種と連携できる関係作りを今後も継続して欲しい。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
<b>〔具体的な状況・取組内容〕</b> 主治医との連携についてはケアマネ、看護職が担当し、早期発見、早期対応ができる体制をつくる努力をしている。 関係多職種から学ぶことが多い、							
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			互いの専門性を理解して、共同作業が円滑に進むよう取り組みを進めて欲しい。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
<b>〔具体的な状況・取組内容〕</b> 同じフロアで業務に当たっており、意思疎通は十分に行えている。それぞれの専門性を活かせるよう調整を積極的に行っている。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			チームケアの精神を大切にしながら、利用者の対応を最大限に発揮できるチームを作りたい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 情報共有する関係性はできている。それをどう生かすか等の調整や判断力ができる職員がまだ乏しい。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			看護師とはいえスキルも違えば人も違う。研修等も活用しスキルアップに励んで頂きたい。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師用の申し送りノートを活用し、分かりやすい情報共有に努めている。医療面での発信が弱い点が課題である。					
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			今後も誠実な対応をして頂きたい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 気持ちよく利用して頂けるためにコミュニケーションをとりその人を知る努力は惜しまない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			家族様からの質問についてはわかりやすく、具体的に回答することが望ましい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 上記と同じ					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			新しい情報を常に取り入れる姿勢をこれからも続けて欲しい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 必要と思われる場合には看護師から直接説明することで理解を深める努力をしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			看護小規模であることの強みを発揮し、きめ細やかな対応で利用者及び家族の満足度を上げて欲しい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の主訴には絶えず耳を傾ける姿勢を徹底している。家族と本人の要望のズレが発生した場合の調整役としての役割に力を発揮出来るよう努めたい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○			可能な限り迅速に対応してもらうことを期待している。状態の変化については早期に気づき、予後対応の説明をお願いしたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅の状況を的確に把握することで、在宅生活の継続の判断ができるため、多くの職員の目で確認するようにしている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			終末期は家族の精神的なケアも必要とされる。本人、家族にしっかり寄り添う姿勢を期待している。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医、看護師を中心に対応している。経過について正確に記録に残し、振り返りが出来る体制にしている。					
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			カンファレンス等には可能な限り参加し、情報交換をして欲しい。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院の地域連携室との連携に注力している。サマリーを遅滞なく送付することで、退院時のカンファレンスの参加に繋がっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			医師に連絡をする関係が出来ていれば安心。急に亡くなるケースもある為、色々な事例を想定し対応策を考えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			救急車の搬送先が決まらないケースも多いと聞く。看護師は大変と思うが適切な対応を望む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			地域包括支援センター業務を受託することでのメリットを生かして欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことが</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							ない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			会議の内容を全職員が共有していなければ意味が無い。内容を把握できる体制を作ることが肝要であると言える。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 過去の議事録はファイリングしており閲覧可能な状態にしている。会議や昼礼で情報発信しているが、職員が手にして見ている場面は少ない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			コロナも5類になったとはいえまだまだ感染に対して敏感にならないといけない。その中で、今後は地域に向けて積極的にどうかわるか工夫が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] 主に「ひまわり日記」という媒体を使用して、施設の取り組み内容については発信している。コロナから地域との関りが希薄になりつつあるのが課題。					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している					今後、実施する予定等があるか検討しておくべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			常時、吸引を必要とする利用者を受け入れる事業所として体制が整えられることを望む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	難しいと思うがいろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している				○	地域包括支援センター業務の受託により、身近に学ぶ環境が整ったと思われる。是非、そのメリットを生かして欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			特定の集合住宅等に限定する意味についてはわからないが、利用者の困窮具合が基準となっている現状は適切であろうと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		地域にも気づきとしてとらえることが出来、互いに成長するための関係性を望んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			それは素晴らしい取り組みである。紙パンツ類も種類が多く何を選んでよいかわからない。尿測をしながらじっくりと選定してくれるとは有難い。コスト削減にもなり得るだろう。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	早期にすべての利用者 に達成されるよう頑張っ て頂きたい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価 します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	介護に加えて医療面の サポートが受けられるこ とは心強い限りである。看 護小規模多機能に対する 期待は大きい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用 者およびその家族等に対し、サービ スの提供により実現された「医療が 必要な状況下においての、在宅での 療養生活の継続に対する安心感」に ついて、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> <li>5. 看取りの希望者はいない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 現在は看取り希望者はいない。</li> </ol>	<p>これまでの実績が少ないとのことであるが、他の様々な項目も踏まえ、大いに期待している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</li> <li>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</li> <li>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</li> </ul>